



早稲田大学
科学技術関係人材のキャリアパス
多様化促進事業

ポスドク・キャリアセンター
早稲田大学 理工学術院



採択機関としての早稲田大学

平成18年度 採択機関(8機関)

(北海道大学、東北大学、理化学研究所、早稲田大学
名古屋大学、大阪大学、山口大学、九州大学)

⇒首都圏の大学としては、唯一の採択校

早稲田大学 ポスドクキャリアセンター

(連携機関)

(独)科学技術振興機構 (独)中小企業基盤整備機構

日本弁理士会 (独)工業所有権情報・研修館

日本テクニカルコミュニケーション協会 (株)日経BP企画



早稲田大学におけるポストクの現状

- 理系ポストク数 推定約170名
(理工学術院、21世紀COE、ASMeW、総合研究機構など)
- 大学としてポストクの数や就職先については部分把握にとどまっている
- 博士課程以上の専門研究者のキャリア相談に対応する全学的な組織は従来存在しなかった
- 研究拠点が多数分立し、所属が異なるポストクがキャリアパスに関わる情報を共有できていない

早稲田大学の取り組み概要



若手研究人材

- ①ポストドクター
- ②任期つき助手・講師・助教授等

連携機関

- ・(独) 科学技術振興機構
- ・(独) 工業所有権情報・研修館協会
- ・(独) 中小企業基盤整備機構
- ・日本弁理士会
- ・日本テクニカルコミュニケーション協会
- ・(株)日経BP企画

早稲田大学 ポスドク・キャリアセンター

ポスドク・研究指導者の意識啓発
(フォーラムの開催／個別ヒアリングの実施)

若手研究者の能力開発
(知財／コミュニケーションなど各種研修の実施)

産業界との交流促進
(産学連携情報の提供、交流会の実施)

キャリア多様化のための環境醸成
(広報活動・産学ネットワーク化)



新たな産学連携モデルの創出

- ・若手研究人材キャリアパス多様化支援コンソーシアム
- ・文理融合型産学連携大学院

多様なキャリアパスの実現

- ・大学等の教育・研究職
- ・公的研究機関のシニアリサーチャー
- ・企業におけるシニアエンジニア
- ・知財担当、技術移転専門スタッフ
- ・弁理士、特許審査官
- ・研究開発プログラム・オフィサー
- ・産学連携コーディネーター
- ・行政機関等における産業政策スタッフ
- ・アントレプレナー
- ・ベンチャー・キャピタリスト
- ・科学技術ジャーナリスト
- ・科学技術担当・広報スタッフ

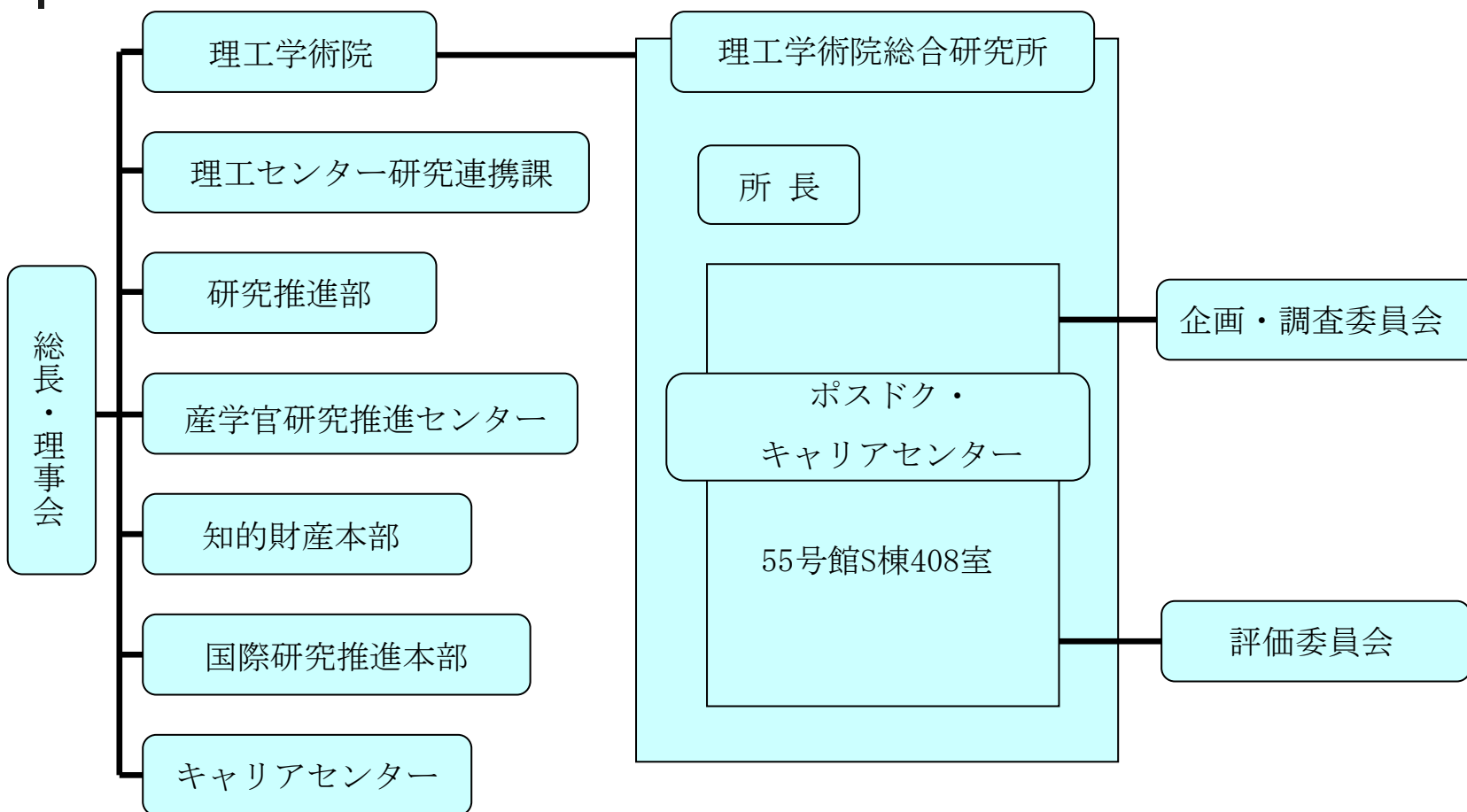




ポスドクキャリアパス多様化事業 (早稲田大学のアクションプラン)

- ポスドク・研究指導者の意識啓発
- 若手研究者の能力開発
- 産業界との交流促進 (Campus on Industry)
- ポスドクのヒアリング (若手研究人材バンク)
- ポスドク・キャリアガイドブックの作成
- 関連機関との連携強化 (大学内を含む)
- キャリアパス多様化支援コンソーシアム
- 文理融合型の産学連携大学院

ポスドク・キャリアセンターの組織 と学内関連部課



ポスドク・研究指導者の意識啓発

- 若手研究者が自らのキャリアパスを見つめ直し、主体的にキャリアパスを選択できる情報・機会を提供
(各種フォーラム開催、キャリアガイドブック発行)
- ポスドクのキャリア形成に影響を与える教職員に対しても、今後の大学研究環境の変化を踏まえた研究指導者研修を実施



若手研究者の能力開発

- 技術情報、知的財産権の知識や、MOT、外国語によるプレゼンテーション能力など、キャリアの多様化に必要な研修を実施
- 研究開発マネジメント、予算獲得など、研究者として自立に必要なスキルの育成
- 技術開発マネジメント、技術開発戦略等の研修の場を確保





産業界との交流促進

- 若手研究者のヒアリングを行い意識啓発を進めるとともに、アンケート、ヒアリング結果を解析し、産業界とのマッチングに必要な情報を集積する。
- ポスドク等若手研究者と民間企業の研究者・人事担当者の「出会いの場」を創出し、企業と人材のマッチングを図る。



ポスドクヒアリングとその目的

- 早稲田大学に所属するポスドク等若手研究者全員を対象に面接調査を実施(約45分間)
- 学内若手研究者の意識啓発を進めるとともに、その実態を把握し、キャリア多様化に資することを目的とする
- 希望者にはキャリアアドバイザーによる、個人キャリア相談を実施し、キャリアアップ、キャリア多様化の促進を図る



ポスドクの制度について

<ポスドク制度に賛成>

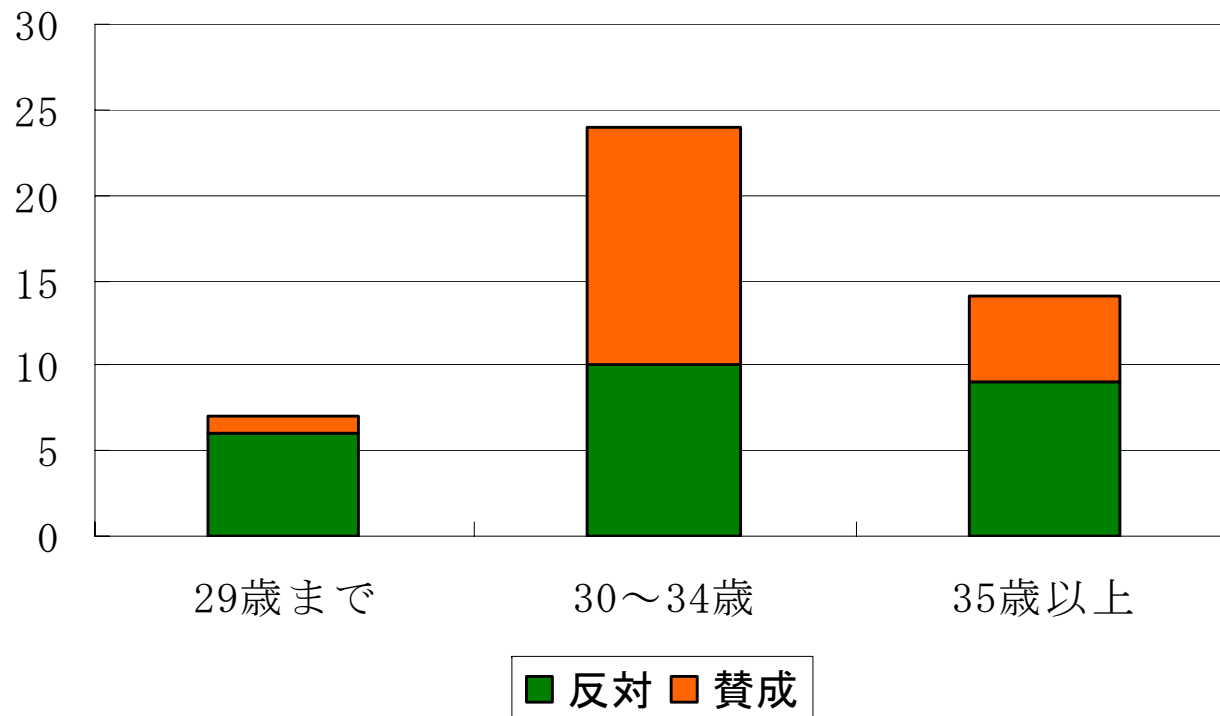
- 若手の研究者に教職ポストに就く前に比較的自由に研究ができる期間が与えられる(30代前半、男性)

<ポスドク制度に反対>

- 増え続けるポスドク人数に対してその後のポストが少なすぎる(男性、20代後半)
- 国のビジョンが見えない。ポスドクの雇用問題など国の政策的なミスリードのツケを、若手の研究者が背負わされている印象がある(男性、30代前半)

ポストドク制度には賛否両論あり、その捉え方は、年齢層によっても異なっている。

ポストドク制度に対してどう思うか？



出所: ポストドク・ヒアリング



ポスドクの立場について

- 将来の見通しが立たず、不安。任期付きだと落ち着いて研究に専念できない(30代前半、男性)
- ポスドクの身分では研究助成金の申請等において単独で申請者になれない等の制約がある(30代前半、男性)



人材としてみたポスドクについて

- ポスドクは論理的思考や事務処理の面で潜在的に能力が高い。企業でも活躍できるはず。問題は求人とのマッチング(20代後半、男性)
- 企業と比較した場合、大学は常識を持った人が少ないと感じる。これはポスドク等の採用の際に、業績評価に偏りがちで、人物評価が軽視されているからではないか(30代前半、男性)

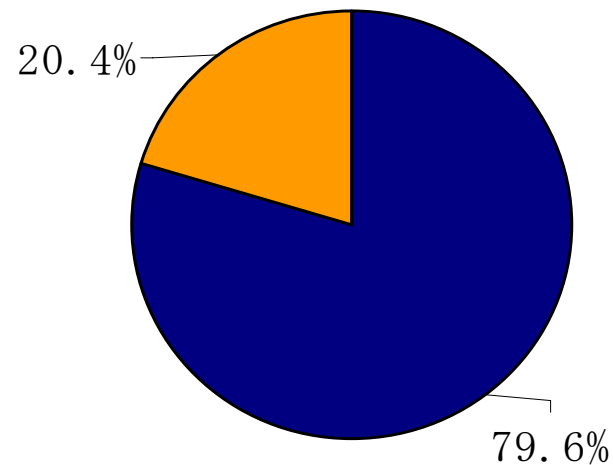


ポスドクのキャリア転身について

- 理系ポスドクは学部卒業時や、修士課程修了時に民間企業に好条件で就職する機会があったのにあえて大学に残った人材。現時点でのキャリア転身は考えにくい(30代後半、男性)
- ポスドクがキャリア転身を図り、研究業務をやめると「落ちこぼれ」とみなされる風潮がある(30代前半、男性)

ポスドクの多くが、10年後も研究を継続できる環境を望んでいる

あなたは10年後研究を継続していると思いますか？



■ 研究を継続していると思う ■ 研究を継続していないと思う

出所:ポスドク・ヒアリング

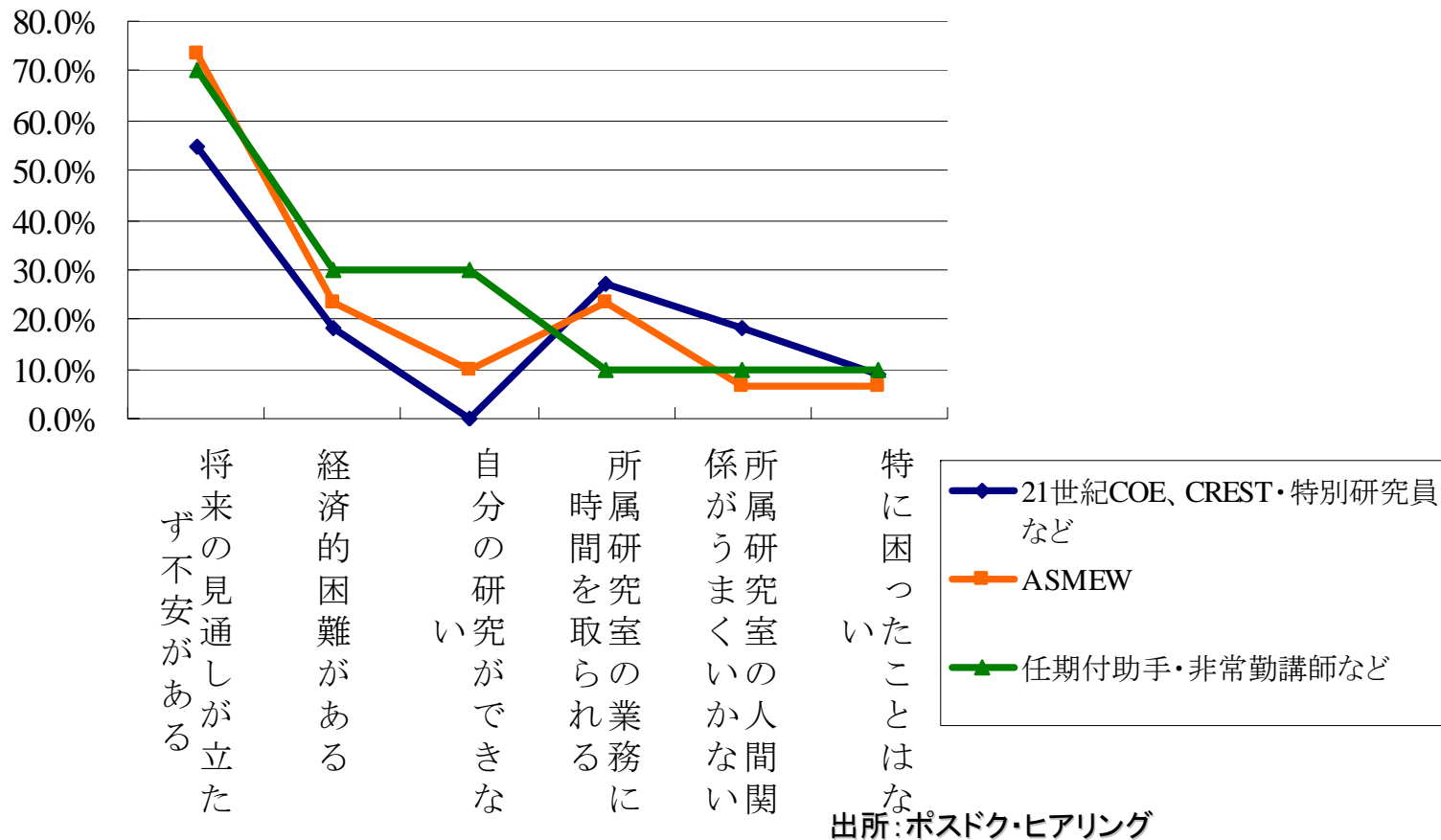


研究環境について

- 早稲田では一人の教授が研究室で指導する学生の数が多く、ポスドクも学生指導で時間をとられる場合が多い(30代前半、男性)
- 就職を前提とした修士課程の学生は研究に対するモチベーションが低く、良質なリサーチスタッフが不足気味である。そのしわ寄せがポスドク等の負担となっている(30代前半、男性)

ポストクの多くは将来不安を抱えているがその種類によっても研究できる時間など研究環境に差がある

ポストクのポジションにおいて困っていること





大学側に求める要望について

- 研究助成金の応募について情報提供や書類作成の支援をして欲しい(30代前半、男性)
- 外国人研究者に負担が少ないように、大学の書類や標示を完全英語併記として欲しい(30代後半、男性)
- 研究人材の流動化は若手にだけ求めるのではなく、専任教員も大学外へ異動する仕組みを作るべきではないか(30代前半、男性)
- ポスドクのキャリア支援について全学的な支援体制を整備して欲しい(30代後半、男性)



若手研究者に対する総合的な キャリア支援策の必要性

- 早稲田における理系人材の就職は、学部生レベルでは伝統的な研究室の人的ネットワークに寄るところが大きいが、ポスドクレベルでは現状ほぼ個人の自助努力によっている
- 早稲田の伝統的な美風を活かしつつ、大学研究環境の変化に対応した人材育成・産学連携策が求められる
- 来年度の理工再編と合わせ、若手研究者に対する総合的なキャリア支援策を全学的に取り組む必要



ポスドク・キャリアガイドブックの作成

ポスドクのキャリア選択の参考に供すると共に民間企業等に広く配布し、若手研究人材のキャリアパス多様化のための理解増進を図る。

- 理系人材の挑戦(白井総長)
- 産業界からの期待と注文
- 理系白書とポスドク問題(ヒアリング結果)
- ポスドクOBインタビュー
- キャリアアップのためのツール



関連機関との連携強化

- **連携機関**：(独)科学技術振興機構、(独)中小企業基盤整備機構、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館、日本テクニカルコミュニケーション協会、(株)日経BP企画
- **学内**：研究推進部(総合調整)、知的財産本部、産学官研究推進センター、国際研究推進本部、理工センター研究連携課
- **学外**：経団連、企業、JSPS、NEDO、理研、産総研、問題を共有する大学等

早稲田大学の平成18年度イベント (学外からの参加も)

2006年 12月2日	研究者のための自活セミナー（技術情報、予算獲得）
12月5日	研究指導者研修（米国の科学技術政策、ポスドクの現状等）
12月5日、8日、 14日、15日	研究者のための知財研修（全4回）
12月7日	シンポ「理系人材の挑戦」（研究指導者、ポスドク、産業界）
2007年 1月20日	産業アライアンス研修1 「産業界への貢献」
2月14日	産業アライアンス研修2 「ベンチャー・地域への貢献」
2月3日、24日、 3月10日、22日	研究者のための実用英語講座（講演1回、ワークショップ3回）

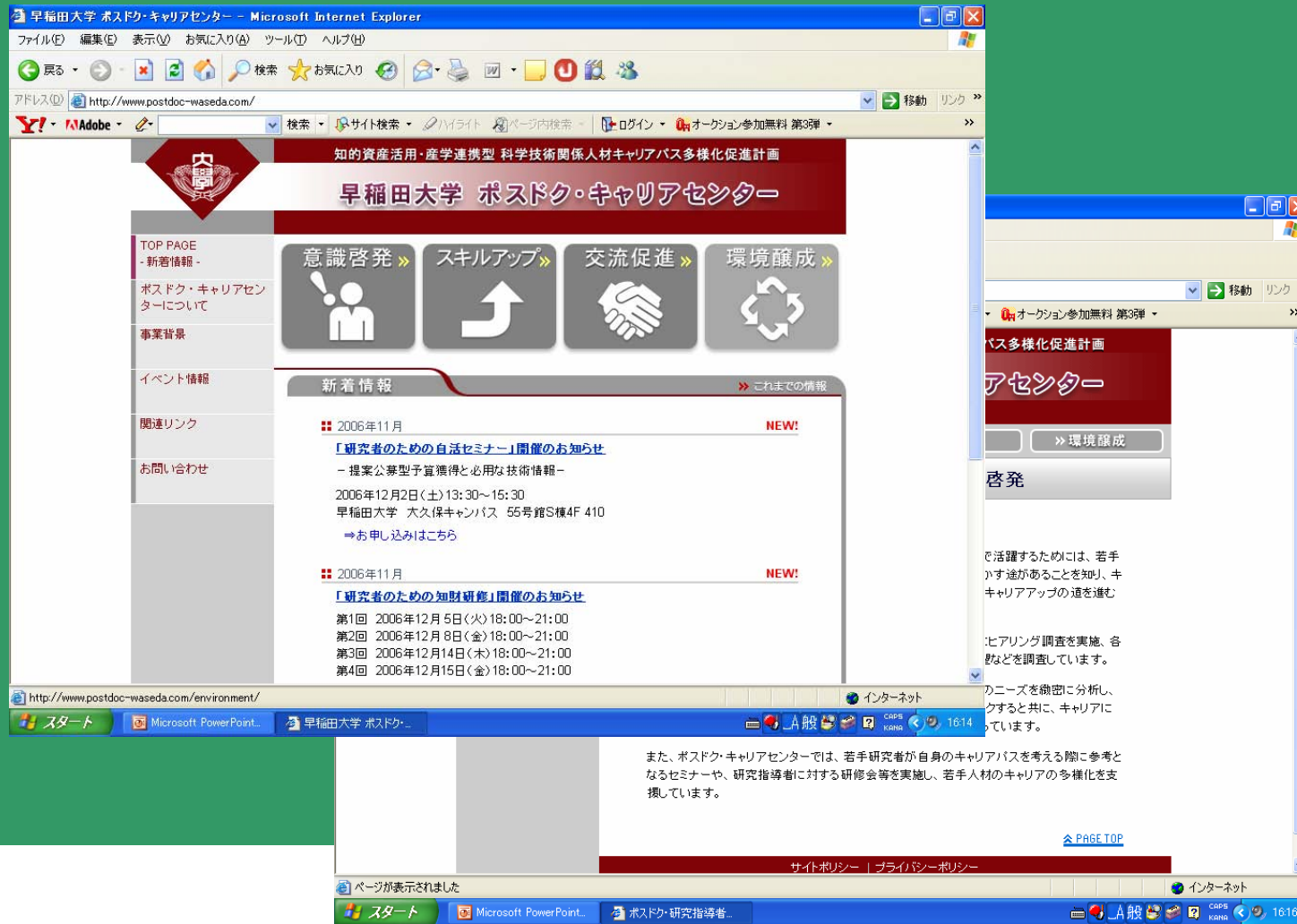


将来目標

- 委託期間終了後(2009年以降)は大学で内製化

- 人材育成を中心とする新たな産学連携モデルの構築

- 文理融合型の産学連携大学院の設立構想



早稲田大学 ポスドク・キャリアセンター : <http://www.postdoc-waseda.com/>